

英語科目についての概要

中級英語について（選択科目：1年次以上）

総合英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1年次）については、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養だけでなく、英作文とプレゼンテーション技能の基礎的訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1年次）は、総合英語 A I / A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に4技能を訓練する。読解力については、CEFR B2を参照した読解レベル（「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。」）を目標としている。

*CEFR：Common European Framework of Reference for Languages（欧州共通言語参照枠）

総合英語 C I / C II（2年次）は、総合英語 A I / A II や B I / B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。さらに、上級英語（選択科目）や各学科の英語科目への橋渡しとなる科目でもある。なお、GPAの高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話、作文とプレゼンテーション。）

総合英語 B（読解を中心とする4技能。聴解、作文、プレゼンテーションなども行なうことがある。）

総合英語 C（総合英語 A、B を発展させた内容。三つのテーマからの選択制。）

3. 履修上の注意

- 1) 出席率が3分の2以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第11条2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず担当教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

1. 目的および目標

総合英語 A、B と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。意欲的な学生に幅広く対応している。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、視聴覚授業、海外語学研修準備講座、等を随時展開している。外国人と日本人教師の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を2コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について（選択科目：2年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 履修する学生は、総合英語 A と B を履修していることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
 - 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
 - 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を2コマ、など）
 - 4) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
 - 5) TOEIC スコア（600点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。
- （注）大学院においても英語（ラクストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡をとること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long, Chris O'Sullivan, Mason Lampert,
Andrew Gallacher, Huw Tyler, Akiko Kuriyama,
Dennis Laurence Woolbright

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Self-introductions.
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00～16:00 火曜日 10:00～17:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

総合英語 A II Comprehensive English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long, Chris O'Sullivan, Mason Lampert,
Andrew Gallacher, Huw Tyler, Akiko Kuriyama,
Dennis Laurence Woolbright

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00～16:00 火曜日 10:00～17:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
3. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
4. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 III
5. 新聞・雑誌の英語 I
6. 新聞・雑誌の英語 II
7. 新聞・雑誌の英語 III
8. 新聞・雑誌の英語 IV
9. エッセイの英語 I
10. エッセイの英語 II
11. エッセイの英語 III
12. エッセイの英語 IV
13. プレゼンテーション I
14. プレゼンテーション II
15. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30%）小レポート（40%）期末レポート（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書を持参すること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡をすること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- ・授業の内容は連続しているため、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書
- ・TOEFL ITP テストリーディング教本（テイエス企画）978-4-88784-144-4

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・応用化学（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 7 Hydrogen Beer
3. "
4. 発表
5. Topic 14 Knowing Where You Stand
6. "
7. 発表
8. Topic 19 South Korean Moms Pray for Student Success (I)
9. Topic 20 South Korean Moms Pray for Student Success (II)
10. Topic 19, 20 の続き
11. 発表
12. Topic 22 Okinawans
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。
- ・加えて、レポート提出日には、教科書に関連する英語の記事を調査し、指示されたやり方でまとめておくこと。
- ・発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：

1. Snapshots of Life Today (朝日出版社) 830/K-8
2. Experience an English Program! (松柏社) ISBN978-4-88198-575-5

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Crops for Food or Fuel?
3. Oceans Awash in Toxic Plastic
4. Global-warming Super Typhoons
5. Sligshot: Water Purification Innovation
6. Engineering Earth is Possible
7. Engineering Earth is Possible
8. Review
9. Making Stem Cell Therapy into Reality
10. Learning from the 2011 Tohoku Tsunami
11. Gigantic Oil Spills and Clean-ups
12. Public Construction Projects Under Review
13. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
14. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834

9. オフィスアワー

木曜日 4時限目（総合教育棟 4階 414）
上記以外にも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
総合システム工学科・マテリアル工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。TOEFLテストについても学習を行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. I am from a family of artists
3. Backstroke (1)
4. Backstroke (2)
5. Listening and Reading Comprehension Test
6. Lost Worlds (1)
7. Lost Worlds (2)
8. Review Test 1
9. Why Japan Succeeded (1)
10. Why Japan Succeeded (2)
11. Virtual Violence (1)
12. Virtual Violence (2)
13. Listening and Reading Comprehension Test
14. The Other America
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFLテストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：WISH（研究社）ISBN: 9784327421748 TOEFL iBT® 対策・リーディング&リスニング：教養英語演習（松柏社）ISBN: 9784881986585

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6（英英辞書に関心がある人に）

9. オフィスアワー

火曜日 4限（14：30～16：00）（総合教育棟 3階：S313）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：応用化学・総合システム・建設社会
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 前田 雅子

1. 概要

人間が人間である限り、時代を超えていつまでも話題になり、議論を呼び、深く考えさせるような題材に英語で触れることで、読解能力の基礎を培うとともに教養を深めることを目標とする。また、与えられた英文の構造、組み立て方を学ぶことで、自らの興味のある題材を英語を用いて発信する能力を育成する。

2. キーワード

社会問題、環境問題、読解力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Cruelty of Strangers
3. Fertility Now
4. Crime and Punishment
5. Education
6. Marriage
7. Review Activity 1
8. Immigrants
9. Gender
10. Globalization
11. Sex Education
12. Cults
13. Prostitution
14. Strange Brains
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Burning Issues（松柏社）ISBN: 9784881986950

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：木曜 4限
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・
 総合システム工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション
2. 発表と評価
3. 発表と評価
4. 発表と評価
5. 発表と評価
6. 発表と評価
7. 発表と評価
8. 発表と評価
9. 発表と評価
10. 発表と評価
11. 発表と評価
12. 発表と評価
13. 発表と評価
14. 発表と評価
15. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、期末試験を総合的に評価する。TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回のレジュメを各自でダウンロードし、オピニオンシートを作成したうえで出席すること。
- ・発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。
- ・発表担当箇所に関する疑問は、オフィスアワーなどを利用して事前に解決しておく。

8. 教科書・参考書

- ・辞書
- ・授業で使用するプリントはHPに掲載するので、各自で確認し用意すること。
- ・TOEFL ITP テストリーディング教本（テイエス企画）978-4-88784-144-4

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
 応用化学（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。TOEFLテストについても学習を行う。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1 The Slippery Case of the Missing Butter
3. "
4. 発表
5. Topic 2 By Bike round Australia (I)
6. Topic 2 By Bike round Australia (II)
7. Topic 2 まとめ
8. 発表
9. Topic 4 From Why Write?
10. "
11. 発表
12. Topic 8 Change of Heart (I)
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。加えて、レポート提出日には、与えられたテーマについて、自分の意見を英語にまとめておくこと。発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書：
1. Snapshots of Life Today（朝日出版社）830/K-8
 2. Topics and Tactics for the Toefl Test（南雲堂）ISBN978-4-523-17586-5

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
 マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。また TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. A Bright Future for LED Lights
3. Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
4. Civil Engineers Test New Concrete
5. Solar-powered Planes and Yachts
6. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
7. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Wave
8. Review
9. Electric Cars
10. Preparing for the Trip to Mars
11. 3D TV Gadget
12. Controlling Cadget with Your Own Thoughts
13. Gesture-based Computing
14. Gesture-based Computing
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。なお評価に TOEFL に関連した内容を 10%以上含める。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書：1. Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834
 副教材：2. Boost Your English 2 --Practice for TOEFL ITP--(Seibido) ISBN: 9784791931255

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）
 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Akeelah and the Bee (1)
3. Akeelah and the Bee (2)
4. Listening and Reading Comprehension Test
5. The Shock of Teapots (1)
6. The Shock of Teapots (2)
7. Unstrange Minds (1)
8. Unstrange Minds (2)
9. Review Test 1
10. The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner (1)
11. The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner (2)
12. A Society (1)
13. A Society (2)
14. Listening and Reading Comprehension Test
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：WISH(研究社) ISBN: 9784327421748 TOEFL iBT® 対策・リーディング&リスニング: 教養英語演習(松柏社) ISBN: 9784881986585

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7(第7版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6(英英辞書に関心がある人に)

9. オフィスアワー

火曜日4限(14:30~16:00)(総合教育棟3階:S313)

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科(コース)：応用化学・総合システム・建設社会

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

自然科学を中心とした様々なテーマに関するやや難解な英文を読み解く力を育むことを目標とする。また、そのような多岐にわたる話題に関して、自ら知識を増やし、自分自身の意見を持つこと、さらに、その意見を英語で伝えることの練習をする。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

自然科学、社会問題、読解力育成

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Our Stolen Future (1)
3. Our Stolen Future (2)
4. Walden (1)
5. Walden (2)
6. Gulliver's Travels (1)
7. Gulliver's Travels (2)
8. Review Activity 1
9. Galaxy Quest
10. The Selfish Gene (1)
11. The Selfish Gene (2)
12. So What You Mean (1)
13. So What You Mean (2)
14. The Arrow of Time
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、小テスト、TOEFL 演習を含む)と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を10パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用(携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Scope(研究社) 837.7/M-12, Preparations for new TOEFL iBT: Listening & Reading(松柏社) ISBN: 9784881986288

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：木曜4限
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Explanation (1)
3. Explanation (2)
4. Explanation (3)
5. Essay (1)
6. Essay (2)
7. Essay (3)
8. Critiques (1)
9. Critiques (2)
10. Critiques (3)
11. Projects (1)
12. Projects (2)
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- 授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 1 My Club Activities
3. Unit 2 How Committed Are You to Learning English?
4. Unit 3 What Do You Want to Do with Your Life?
5. Unit 4 My Part-time Job
6. Unit 5 How Do You Keep Fit?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト 予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書: Your First Speech and Presentation (南雲堂) 836.7/T-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The March of the Microbes
3. Genetic Doping
4. Ethics in Science
5. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
6. World Population
7. After the Peak Oil Crash
8. Starvation, Famine and Hunger
9. Nanotechnology
10. Efficient Cars
11. Cyborgs
12. Identity Theft
13. Chaos Theory
14. Comets, Meteors and Asteroids
15. Space Stations and Outer Space Exploration

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。（私語、内職、携帯電話等は厳禁。）
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Bruce Allen: Imagining Tomorrow (Seibido) 830.7/A-39/1

9. オフィスアワー

木曜日4時限目（総合教育棟4階414）
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、エッセイ、批判的思考

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. 導入。Edna, Back from America のブリーフィング
2. Edna, Back from America の英語表現確認
3. Neighbours のブリーフィング
4. Neighbours の英語表現確認
5. The Hero のブリーフィング
6. The Hero の英語表現確認
7. テスト
8. Telling Stories のブリーフィング
9. Telling Stories の英語表現確認
10. Marionettes, Inc. のブリーフィング
11. Marionettes, Inc. の英語表現確認
12. Mr Know-All のブリーフィング
13. Mr Know-All の英語表現確認
14. The Model Millionaire の英語表現確認
15. テスト
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：A Tangled Web (Oxford) ISBN: 9780194228138
参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第7版）
Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

火曜日4限（14:30～16:00）（総合教育棟3階:S313）

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

現代文化の諸問題について、英語で読み、聞き、話し、書く練習をなるべく多く行い、実践力を身につけることを目指す。

2. キーワード

ディスカッション、時事問題、批判的思考

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction (American Supremacy)
2. Anorexia
3. Art as a Joke
4. Bad Sport
5. Beauty
6. Detension
7. Review Test 1
8. Driven Mad
9. Drug Control
10. Fashion Statement
11. Fighting AIDS
12. Food Safety
13. Global Control
14. Hidden Politicians
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Advanced (Macmillan) 830/H-14/1
 参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7(第7版)
 Oxford Advanced Learner's Dictionary(英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

9. オフィスアワー

火曜日4限(14:30~16:00)(総合教育棟3階:S313)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

魅力的で偉大な人物の伝記を読むことで、英文の読解能力の向上を目指す。また、それに関連する多種多様な社会問題を扱うことで、それらの諸問題に対する自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、読解力、情報発信

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Steve Jobs
3. The Beatles
4. Alexander the Great
5. Pele
6. Coco Chanel
7. Yuri Gagarin
8. Review Activity 1
9. Walt Disney
10. Toyoda Eiji
11. Albert Einstein
12. Audrey Hepburn
13. Albert Schweitzer
14. Archimedes
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、小テストを含む)と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用(携帯内臓辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- 毎回辞書を持参すること。
- 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Aiming for the Top(三修社) ISBN: 9784384334296

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：木曜4限
- 研究室：総合教育棟 412
- 連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

現代文化の諸問題について、英文読解の際に適切に、早く理解することを目標とする。また、英語を用いたディスカッション、ライティングを通して主体的に自らの考えを発信する力を身に付けることを目指す。

2. キーワード

時事問題、読解力、ディスカッション

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Orientation
2. American Supremacy
3. Art as a Joke
4. Detention
5. The Coffee Shop Situation
6. Church Doctrine Barrier to Pacific Fight against AIDS
7. Review test
8. Food Labelling too much to swallow
9. Lost Language
10. Global Control
11. Hidden Politicians
12. Homeboys
13. Driven Mad
14. Beauty
15. Review Test 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加 (課題、発表、レポート、小テストを含む) 60%、学期テスト 40% で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用 (携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- 毎回英英辞書を持参すること。
- 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読み、その概要やそれに対する自分の考えを英語でプレゼンテーションできるように準備すること。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書 : Ideas and Issues: Advanced (Macmillan) 830/H-14/1
参考書 : 新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)
Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

9. オフィスアワー

- オフィスアワー : 木曜 4 限
- 研究室 : 総合教育棟 412
- 連絡先 : maeda@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

教科書のタイトル "Above the Glass Ceiling" の "the glass ceiling" とは、女性の社会進出を妨げる女性差別のバリアのことである。"above" であるので、その差別のバリアを超えて、というのが教科書のメッセージである。授業では、各職業ごとにガラスの天井を破り、世界と人類に貢献した女性を取り上げ、社会的・文化的な男女のありよう、というジェンダー問題を英文を通して考える機会とする。構文理解に役立つ文法事項の習得を通じて、英文読解力、リスニング力を培う。学生が将来、論文を英語で読む際に役立つことを視野に入れる。

2. キーワード

ジェンダー問題、カルチュラル・リテラシー、文法理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 1 Diplomats Scholars (1)
3. Chapter 1 Diplomats Scholars (2)
4. Chapter 2 Writers (1)
5. Chapter 2 Writers (2)
6. Chapter 3 Musicians (1)
7. Chapter 3 Musicians (2)
8. Chapter 4 Engineers (1)
9. Chapter 4 Engineers (2)
10. Chapter 5 Educators (1)
11. Chapter 5 Educators (2)
12. Chapter 6 Politicians (1)
13. Chapter 6 Politicians (2)
14. Chapter 7 Actresses
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- 各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- 各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 : Above the Glass Ceiling: Contemporary Women Leaders (Lulu Press)
参考書 : リーダース英和辞典 (研究社) の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。
メールアドレス : teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

このクラスでは、VOA (Voice of America) の最新の放送用スクリプトの中から健康と科学にかかわるトピックを採り上げたものを使用する。さらに日常生活でよく使われる平易な語彙や構文をとおしてこれまでの言語知識を更に強固なものにしていく。

2. キーワード

日常的基礎知識 基本的文法力、読解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Einstein's Brain
3. Brain Makes New Cells
4. Music and Math
5. Soy Protein Health Claim
6. CT Scans for Lung Cancer
7. Writing and Good Health
8. Chimp Culture
9. Genetic Damage in Young Smokers
10. More Vitaminn C
11. Drinking Coffee and Gallstone Disease
12. Anti-AIDS Proteins Found
13. Cholesterol-Reducing Margarine
14. ColorMax Lenses
15. 試験
16. 試験の解説等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習：前回の本文の内容をまとめておき、次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書：Health and Science (Aahi Press) ISBN978-4-255-15348-3

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語の使い方に慣れ、聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の多様な興味に対応するため、「オーガニック食品」「キャラクター文化」「オフィス・ゴシップ」など日常的な話題をトピック別に編集してあるテキストを用いる。「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Idol Mania
3. Organic Food
4. Character Culture
5. Language Change
6. The Pursuit of Perfection
7. Yellow Dust Storms
8. これまでのまとめ、表現活動
9. The End of Privacy
10. Going Carbon Neutral
11. Retro Style
12. Troubled Stars
13. Office Gossip
14. Stem Cells
15. これまでのまとめ、表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表や提出物—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。
- ・授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- ・毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書 Reading Pass 3 (南雲堂) ISBN: 978-4-523-17610-7
その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CDを活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、英語耳を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。
- 自発的に考え、考察する。
- 受動的な授業参加から、能動的な授業参加へと切り替える。
- 日本文化・社会事情を言い表す英語表現を知り、以後の国際コミュニケーションの場で活用する。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Ramen Revolution
3. Unit 3 Hope for the Future
4. Unit 4 How to Beat the Heat
5. Unit 5 Party, Brazilian-style
6. Unit 6 Smart Phones, Smart Kids
7. Unit 7 Frozen Frontier
8. Unit 8 Top Skills on Display
9. Unit 9 Reality Check
10. Unit 10 Saving the Rain Dance
11. Unit 11 Building a Better Ball
12. Unit 12 Clean-up Relay
13. Unit 14 Stepped-up Robots
14. Unit 15 Sleeping Business
15. 関連情報を使ったまとめ

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- 毎回辞書を持参すること。
- 授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- 教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしてくること。
- 毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- 復習方法としては「音読」、「付属DVDを使ったシャドーイング」を勧める。
- 本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語で日本の社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 8（金星堂）ISBN: 9784764739734

9. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションで伝えます）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菺田 真由美

1. 概要

社会学は社会を見る「視点」や「切り口」を私たちに与え、これまで気づかなかった社会の姿を見せてくれる。日常的な話題について、社会的な観点から新しい発見を与えてくれるような英文エッセイを読み、英語の間に英語で答えることによって、日本語を介さずに内容を理解する訓練を行うと共にパラフレーズによる語彙力の増強にも努める。

2. キーワード

読解力養成、社会学、時事英語

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. The Friendlier the Better [Social Networking]
2. Single at Last [Lifestyles]
3. Kids Will Be Kids [Parenting Styles]
4. School Days [Education]
5. Growing, Growing [Population]
6. Vital Signs [Social Health]
7. I Protest! [Social Movements]
8. Good Job 1 [Unemployment and Society]
9. Good Job 2 [Employment Trends]
10. A Matter of Class [Social Stratification]
11. The Text Is the Message [Language]
12. Crime Doesn't Pay [Social Deviance]
13. Everyday Sociology 1 [Gender/Marriage and Divorce]
14. Everyday Sociology 2 [Corporate Social Responsibility and the Environment]
15. Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 予習・復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のあるテキストの該当箇所について事前に読み、英和辞書にて不明な語彙を調べた上で、質問の答えを書いてくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Everyday Sociology（南雲堂）ISBN: 978-4-523-17719-7

9. オフィスアワー

質問等は授業時間前後に受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

現在、研究に関する最新の情報を得るためには、海外のニュースも適宜確認しなければならない。本授業では、日本の企業や組織が世界に向けて発信しているニュースリリースを教材として使い、最先端の科学・技術に触れながら英語を学ぶ。訳読中心ではなく、速読を行い英文だけで内容や要旨などを捉えられるようになることを目標にする。各企業がどのように情報発信をしているか身に付けてほしい。さらに、毎時間単語テストを行い語彙力を増やす。辞書を必ず持参すること。

2. キーワード

メディアイングリッシュ、リーディング、リスニング、速読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction, Unit 1: Design First!
2. Unit 2: Meeting Athlete's Needs
3. Unit 3: Seven Years in the Making
4. Unit 4: MEISTeR to the Rescue
5. Unit 5: Space Station Science
6. Unit 6: Driving Control & Safety
7. Unit 7: Renewing Plastics
8. Unit 8: Directing the Blind
9. Unit 10: Painless Injections
10. Unit 11: Tsunami Defense
11. Unit 12: Improving Business Performance
12. Unit 13: An Efficient Refrigerant
13. Unit 14: Atmospheric Observation
14. Unit 15: Recycling Heat
15. Review, Listening Test
16. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点する）。
- 毎回辞書を持参すること。
- 新聞やオンラインなどで、国内外のニュースに目を通しておくこと。
- 必ず予習をしてから授業に望むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎時間行われる単語テストの準備をしておくこと。また、適宜課される課題を次の授業までに行っておくこと。学んだ内容についてさらなる理解を深めるため、企業のHPやニュースなどに目を通しておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Japan's Skyline（金星堂）ISBN: 9784764739857

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の基本的な運用能力を高めるためにアジア諸国の文化を通して英語の読解力と聴解力を中心に、聞く、話す、読む、書くという英語の総合能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけて、総合的な英語力を育成する。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Korean TV dramas.
3. Indian traffic.
4. Hello Kitty in Singapore.
5. Wedding plans
6. Blood type in Korea.
7. Bollywood movies.
8. Chinese as a foreign language.
9. Indonesian elephant doctor.
10. Medical tourism in the Philippines
11. One billion couch potatoes
12. Mongolian women.
13. Food culture in Taiwan.
14. Revision
15. Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%), Class participation (33%), Final test (33%).

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

今回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Hello, Asia!（南雲堂）ISBN: 9784523175421

9. オフィスアワー

授業時間 15分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

AFP World Academic Archive のニュース映像と合わせて、世界中で起こる現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識をもち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションも行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Lesson 1: Aging Societies and Aging Workers.
3. Lesson 2: Rethinking Our Food Culture.
4. Lesson 3: Restoring Ecosystems in the Galapagos Island.
5. Lesson 4: Virtual Reality and Actual Reality.
6. Lesson 6: Winning Hearts with Monsters and Superstars.
7. Lesson 7: The Austerity Debate: Bitter Medicine-or Poison?
8. Lesson 13: Myanmar at a Turning point.
9. Lesson 14: Computer Games for Therapy
10. Lesson 16: Medical Tourism
11. Review
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ハムレット』－名場面より
13. 『ハムレット』のDVD鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3分の2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- 授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- 毎回、辞書を持参してください。
- 毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2回目から10回目までは各 Lesson の予習をしておいてください。3回目から11回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしておいてください。12回目は『ハムレット』の予習をしておいてください。14回目、及び、16回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：AFP World News Report 2 (2014 年度版/成美堂)
ISBN: 978-4-7919-1020-5

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本授業では、現代アメリカ社会の第一線で活躍する政治家・文化人・企業家・研究者にまつわるエッセイを読み、また関連する映像資料を観ることで、総合的な英語能力を高めることを目的とする。またテキストに基き、毎回、担当を決め、それについてのプレゼンテーションを行なってもらうが、この過程を通じ、学生の側には積極的に発言をし、活発な意見交換をしてもらいたい。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、リスニング、プレゼンテーション

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Barack Obama: America's 44th President
3. Stan Lee: Creator of Marvel Comics
4. Angelina Jolie: Actress & Humanitarian
5. Justin Bieber: International Pop Idol
6. Mark Zuckerberg: Founder & CEO of Facebook
7. Matt Damon: Outspoken Actor
8. Tim Cook: Leader of Apple Computer
9. Lady Gaga: Flamboyant Pop Singer
10. Marc Jacobs: Bi-Continental Fashion Designer
11. Michael Bloomberg: New York Mayor & Billionaire
12. Doris Kearns Goodwin: Popular Historian
13. George Lucas: Filmmaker of Star Wars
14. Martin Seligman: Founder of Positive Psychology
15. Michael Kors: Fashion Designer & TV Judge (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- 3分の2 以上の出席を履修の原則とする。
- 十分な予習をすること。
- 積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

Cultural Leaders in America Today 2 (Asahi Press) ISBN
978-4-255-15552-4 C1082

9. オフィスアワー

授業時間終了後
e-mail: tmknagakawa@yahoo.co.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role.
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

8. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan Language House) 830/V-3/2

9. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Food - Conjecture
2. City Life - Skepticism
3. Culture - Comparison / contrast
4. Environment - Validity
5. Work - Explanation
6. Health - Criticism
7. Review / Exam
8. Family - Comparison / Contrast
9. Money - Explanation
10. Gender Issues - Inference
11. Personal Issues - Validity
12. Space - Criticism
13. World Issues - Skepticism
14. Review / Exam

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Watch the Youtube videos (class homework) that relate to each theme and write out important questions and comments to talk about in class. Also, read ahead in the next chapter so as to familiarize yourself with the tasks and vocabulary.

8. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Perceptia Press) ISBN: 9781411680692

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 – 12 : 00、13 : 00 – 14 : 00

Tuesday : 11 : 00 – 12 : 00、13 : 00 – 14 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406 General Education Building)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科・総合システム工学科
学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Explanation (1)
3. Explanation (2)
4. Explanation (3)
5. Essay (1)
6. Essay (2)
7. Essay (3)
8. Critiques (1)
9. Critiques (2)
10. Critiques (3)
11. Projects (1)
12. Projects (2)
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- 授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」ことと「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 7 Smoking Should Be Banned in All Public Places
3. Unit 11 How can We Prevent Suicides?
4. Unit 14 Should the Age of Adulthood Be Lowered in Japan?
5. Unit 15 Should English Be Taught in Primary Schools?
6. Unit 16 Should We Let Children Use Cellphones?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。・アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。・自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書: Your First Speech and Presentation (南雲堂) 836.7/T-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：共通教育棟 S408)

総合英語 C II (アドバンスト) Comprehensive English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特にディスカッションやスピーチを重視する。この授業を通じ、英語の発信能力を養って欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Male Crisis
3. Moonstruck
4. My Internet hell
5. National stereotypes
6. Racist superheroes
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・アウトライン発表会
9. スピーチ・アウトライン書き直し
10. スピーチ・予行演習
11. スピーチ・書き直し
12. スピーチ・コンテスト (1)
13. スピーチ・コンテスト (2)
14. スピーチ・コンテスト (3)
15. スピーチ・コンテスト (4)

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

- ・毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。
- ・アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。
- ・自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 : Ideas & Issues (Advanced) 830/H-14/1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室 : 共通教育棟 S408)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Nuclear Rescue Robots
3. Dr. Henry's Dilemma
4. Human Experimentation
5. Professional Experimentation
6. Chasing a Dream
7. Made with Japan
8. Eco Japan
9. Specialist or Politician
10. To Err is Human
11. No water? Technology to the Rescue
12. The Dedication of an Oyster Fisherman Saves a Forest
13. Foundation of Science Crumbling
14. The Kanemi Yusho Incident
15. Tokyo Skytree

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 Explore (Sanshusha) ISBN: 9784384334289

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414) 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II (アドバンスド)
Comprehensive English C II (Advanced)

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)
学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に向上させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking(批判的思考)能力を伸ばす。

2. キーワード

異文化理解、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- 必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- 発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Making Money
3. Male Crisis
4. Marriage
5. Moonstruck
6. My Internet Hell
7. National Stereotypes
8. News Blackout
9. Predicting the Future
10. Racist Superheroes
11. Single Parents
12. Small Planet
13. Test-tube Babies
14. Transplants
15. Violent Youth

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験…20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小論文等…60%
- (3) Presentation…20%

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

授業範囲の予習として、不明な語彙やキーワードの意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Ideas & Issues (Advanced) 830/H-14/1

9. オフィスアワー

木曜日4限目(総合教育棟4階414)
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科
学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解(構造理解、語彙、文化的な背景)とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction / The Lady or the Tiger?
2. The Lady or the Tiger?
3. The Mysterious Card
4. The Mysterious Card
5. The Yellow Wallpaper
6. The Yellow Wallpaper
7. The Yellow Wallpaper
8. Test 1
9. The Lost Special
10. The Lost Special
11. The Lost Special
12. The Lost Special
13. Test 2
14. Discussion 1
15. Discussion 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることが有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：Mystery Stories (Macmillan) ISBN: 0838448461

参考書：新版研究社英和辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7(第7版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary(英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

9. オフィスアワー

火曜日4限(14:30~16:00)(総合教育棟3階:S313)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

魅力的で偉大な人物の伝記を読むことで、英文の読解能力の向上を目指す。また、それに関連する多種多様な社会問題に関し、自発的に調べ、自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、読解力、情報発信

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Wright Brothers
3. Wolfgang Amadeus Mozart
4. Pablo Picasso
5. William Shakespeare
6. Confucius
7. Vasco da Gama
8. Review activity 1
9. Confucius
10. Socrates
11. Martin Luther King Jr.
12. TBA
13. TBA
14. TBA
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- 毎回辞書を持参すること。
- 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読んでおくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Aiming for the Top（三修社）ISBN: 9784384334296

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：木曜4限
- 研究室：総合教育棟 412
- 連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

教科書のタイトル“Above the Glass Ceiling”の“the glass ceiling”とは、女性の社会進出を妨げる女性差別のバリアのことである。“above”であるので、その差別のバリアを超えて、というのが教科書のメッセージである。授業では、各職業ごとに、ガラスの天井を破り、世界と人類に貢献した二人の女性を取り上げ、社会的・文化的な男女のありよう、というジェンダー問題を英文を通して考える機会とする。構文理解に役立つ文法事項の習得を通じて、英文読解力、リスニング力を培う。学生が将来、論文を英語で読む際に役立つことを視野に在れる。

2. キーワード

ジェンダー問題、カルチュラル・リテラシー、文法理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 8 Artists (1)
3. Chapter 8 Artists (2)
4. Chapter 9 Architects (1)
5. Chapter 9 Architects (2)
6. Chapter 10 Athletes (1)
7. Chapter 10 Athletes (2)
8. Chapter 12 Astronauts (1)
9. Chapter 12 Astronauts (2)
10. Chapter 13 Doctors (1)
11. Chapter 13 Doctors (2)
12. Chapter 14 Business Executives (1)
13. Chapter 14 Business Executives (2)
14. Chapter 15 Social Activists
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の3分の2以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 授業をきっかけに、アメリカのテレビ・ドラマ、映画を視聴することを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- 各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 小テストを行うので前回授業の英語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Above the Glass Ceiling：Contemporary Women Leader (Lulu Press)

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

- 質問や学習相談は授業終了後に。
- メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

世界のニュースを通して効果的な4技能の学習を目指す。採り上げるトピックはあらゆる分野に渡り、身近なもので学生の興味、関心を引くものである。難しいと思われがちなニュース英語を読むことで語彙力、読解力を培い、英語力に自信をつけることを目標とする。

2. キーワード

語彙力、読解力、英字新聞に慣れ親しむ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

01. オリエンテーション(授業の進め方、目標等の説明)
02. Nothing is private when it's all on Facebook
03. AKB48 and Kimimaro
04. New holes in European safety nets
05. Economic shoe on the other foot
06. Latvian Voters Rejects Russian as a Second Language
07. Olympics in London
08. As Myanmar Changes, So Does Its Leader
09. Pakisutani puzzle: Hindu daughter to Muslim bride
10. Less acclaim, more fun for Japan's Ig Nobel prize winners
11. How to deal with 7 billion people
12. 'King of kings' Gadhafi met his end in the gutter
13. 工業英検4級練習問題
14. 工業英検3級練習問題
15. 期末試験
16. 試験の説明等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験(70%)

出席点、受講態度(30%)により総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

予習：次回のUnitの本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習：前回のUnitに関連するレポートを次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書 The Half-Edition of English through the News Media (Asahi Press) ISBN978-4-255-15538-8

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の興味に対応するため、「血液型」「ストレス」「睡眠と夢」「カジュアルな服装」など人間生活に直接的に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜TOEICの問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Physical Fitness
3. Blood Types
4. Dreams
5. Pets in Japan
6. Fast Food: Super Size Me
7. The Internet
8. これまでのまとめと表現活動
8. Kawaii
10. Same-Sex Marriage
11. Japan Dresses Casual
12. Salt, Sugar, Fat
13. World Happiness
14. Are Men Necessary
15. これまでのまとめと表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験 - 60%
 - (2) 授業での小テスト - 20%
 - (3) 授業での発表や提出物 - 20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

• 各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。

- 授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- 毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書：Life Topics【Advanced】(南雲堂) ISBN: 9784523176893
その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール(アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp)で随時受け付けます。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 香子

1. 概要

本授業はABC NewsのDVD映像を通してアメリカの社会現象・社会問題を疑似体験し、コミュニケーションの第一歩であるリスニング力を高め、情報をキャッチする力を養うことが第一目標とする。さらに、そのスクリプトを読解し、内容を詳細に検討し解釈することで、各人が自身の考えを発展させ、物事を見る視点を広げてゆくことをさらなる目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・ニュース英語に慣れ、リズムをつかむ。
- ・自発的に考え、考察する。
- ・受動的な授業参加から、能動的な授業参加へと切り替える。
- ・社会事情を言い表す英語表現を知り、以後の国際コミュニケーションの場で活用する。
- ・日本社会との違いを考えながら比較する力を養う。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Loss of Hearing
3. Unit 1 Loss of Hearing
4. Unit 2 Bringing up Baby: Gorilla
5. Unit 3 Dear Santa
6. Unit 5 Malala's Family Speaks
7. Unit 5 Malala's Family Speaks
8. Unit 7 Arming Teachers?
9. Unit 7 Arming Teachers?
10. Unit 8 Incoming: Asteroid!
11. Unit 8 Incoming: Asteroid!
12. Unit 11 Driving Drowsy
13. Unit 11 Driving Drowsy
14. Unit 14 Unlikely Alliance: Gay Marriage
15. Unit 14 Unlikely Alliance: Gay Marriage

5. 評価の方法・基準

評点の満点を100%とし、その内授業での発言や活動を40%、定期試験を60%として評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。
- ・授業の進み方が変則的なので注意すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

- ・予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしてくること。
- ・毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- ・復習方法としては「音読」、「付属DVDを使ったシャドーイング」を勧める。
- ・本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語でアメリカの社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：ABC World News(金星堂) ISBN: 9784764739741

9. オフィスアワー

授業時間前後
 (連絡用メールアドレスはオリエンテーションの時に伝えます)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位
 担当教員名 菺田 真由美

1. 概要

情報伝達的手段であるとともに人間関係を円滑にする役割を持つ言葉について、「会話のしくみ」を理解しつつ、誤解や不信感を生じないために、相手を思いやりながら真意を伝える方法についてのエッセイを読むことにより、読解力を高めるだけでなく、言葉、コミュニケーションへの関心を高める。

2. キーワード

語彙増強、多読、コミュニケーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction / The Problem is the Process
2. The Problem is the Process
3. The Problem is the Process
4. The Problem is the Process
5. The Working of Conversational Style
6. The Working of Conversational Style
7. The Working of Conversational Style
8. The Working of Conversational Style
9. The Working of Conversational Style
10. Conversational Signals and Devices
11. Conversational Signals and Devices
12. Conversational Signals and Devices
13. Conversational Signals and Devices
14. Why We don't Say What We Mean
15. Why We don't Say What We Mean

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(30%)、小テスト(20%)、期末試験(50%)
 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生(私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等)や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- ・毎回辞書(携帯電話の辞書機能使用は不可)を持参すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に指示のあるテキストの該当箇所について、事前に読んでおくこと。その際、英和辞書を使用して不明な語彙を調べてくること。

8. 教科書・参考書

教科書：That's not What I meant(金星堂) ISBN: 9784764704862

9. オフィスアワー

質問等は授業時間前後に受け付ける。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

現在、研究に関する最新の情報を得るためには、海外のニュースも適宜確認しなければならない。本授業では、日本の企業や組織が世界に向けて発信しているニュースリリースを教材として使い、最先端の科学・技術に触れながら英語を学ぶ。訳読中心ではなく、速読を行い英文だけで内容や要旨などを捉えられるようになることを目標にする。各企業がどのように情報発信をしているか身に付けてほしい。さらに、毎時間単語テストを行い語彙力を増やす。辞書を必ず持参すること。

2. キーワード

メディアイングリッシュ、リーディング、リスニング、速読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction, Unit 1: Design First!
2. Unit 2: Meeting Athlete's Needs
3. Unit 3: Seven Years in the Making
4. Unit 4: MEISTeR to the Rescue
5. Unit 5: Space Station Science
6. Unit 6: Driving Control & Safety
7. Unit 7: Renewing Plastics
8. Unit 8: Directing the Blind
9. Unit 10: Painless Injections
10. Unit 11: Tsunami Defense
11. Unit 12: Improving Business Performance
12. Unit 13: An Efficient Refrigerant
13. Unit 14: Atmospheric Observation
14. Unit 15: Recycling Heat
15. Review, Listening Test
16. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁(減点する)。
- 毎回辞書を持参すること。
- 新聞やオンラインなどで、国内外のニュースに目を通しておくこと。
- 必ず予習をしてから授業に望むこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

毎時間行われる単語テストの準備をしておくこと。また、適宜課される課題を次の授業までに行っておくこと。学んだ内容についてさらなる理解を深めるため、企業のHPやニュースなどに目を通しておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Japan's Skyline(金星堂) ISBN: 9784764739857

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

1. 次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと
2. 不明な点は授業終了後に質問に来ると良い。個別にアドバイスをする。

8. 教科書・参考書

教科書：The UK and the USA (Compare and Contrast)(南雲堂) 830/O-10

9. オフィスアワー

授業時間 15分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

AFP World Academic Archive のニュース映像と合わせて、世界中で起こる現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識をもち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションを行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、多読、異文化及び時事問題の理解、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Lesson 1: Luxury Fashion vs. Fast Fashion.
3. Lesson 5: Which Way to Happiness.
4. Lesson 7: E-books.
5. Lesson 9: Wine and Climate.
6. Lesson 10: Freedom in Cyberspace.
7. Lesson 13: The WikiLeaks Phenomenon.
8. Lesson 14: What Is Green Business?
9. Lesson 15: The Future of Space Programs.
10. Lesson 16: Eco-friendly Cars.
11. Review
12. 英文学訪問：
シェイクスピア『ヴェニスの商人』一名場面より
13. 『ヴェニスの商人』のDVD鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的な参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

2 回目から 10 回目までは各 Lesson の予習をしてください。3 回目から 11 回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしてください。12 回目は『ヴェニスの商人』の予習をしてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：AFP World News Report (2012 年度版／成美堂)
ISBN: 978-4-7919-5085-0

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。
メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

現在世界において問題となっている、様々な社会的事象について書かれた英文を読むことで、英文読解能力の向上を目指す。本講義で扱う問題は「ジェンダー」「カルト教団」「性」「代理母」など、私たちの日常生活とも密接に関連する事柄である。そのため受講者には、プレゼンテーションを通し、他人に分かりやすく伝えるという過程を経ることで、これら論点を論理的かつ深く考察してもらいたい。

2. キーワード

リーディング、ライティング、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Cruelty of Strangers: Who can you trust?
3. Fertility Now: From treatment to surrogacy
4. Crime and Punishment: Justice for all?
5. Gambling: Wanna bet?
6. Education: Is everyone cheating?
7. The Disabled: Handicapped? Not us!
8. Marriage: Why marry at all?
9. Immigrants: Burdens of Saviors?
10. Gender: How much does it matter?
11. Globalization: Is it imperialism?
12. Sex Education: How much do we need to know?
13. Cults: Path to heaven or somewhere else?
14. Prostitution: Looking for a good time?
15. Strange Brains: Unlocking the secrets (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的な参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求めます。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジюмеを作成すること。

8. 教科書・参考書

Burning Issues Advanced Level (松柏社) ISBN 978-4-88198-695-0

9. オフィスアワー

授業終了後
e-mail: tmknagakawa@yahoo.co.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 2 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

8. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse) 830/V-3/2

9. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 2 年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

For homework, respond to each of the Internet postings logically and meaningfully, using long and complex sentences to express your ideas. Also, check out any of the five websites and post your comment on any of the news articles or forums. Print out your comment and any replies to it.

8. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press) ISBN: 9784939130960

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00

Tuesday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406, General Education Building)

中級英語 I Intermediate English I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points: a) prepare thoroughly for class b) do writing exercises on your own

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う。
(工学部学修細則第11条2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.
Research topics using the internet.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Prepare adequately for class based on the direction of the teacher.

8. 教科書・参考書

教科書 : Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版) ISBN: 9780582403987

9. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- Week 1 Explaining Japanese Sports and clubs
- Week 2 Explaining Japanese Music
- Week 3 Explaining Japanese Food
- Week 4 Explaining Japanese Handicrafts
- Week 5 Explaining Japanese Holidays
- Week 6 Explaining Japanese Games
- Week 7 Explaining Japanese Cities and Places
- Week 8 Explaining Japanese Relaxation Practices
- Week 9 Explaining Famous Japanese People
- Week 10 Explaining Japanese Superstitions
- Week 11 Explaining Japanese Animations
- Week 12 Explaining Japanese Arts and Theater
- Week 13 Explaining Japanese Etiquette and Customs
- Week 14 Explaining Japanese Buildings and Gardens
- Week 15 Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

8. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.
Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00
Tuesday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00
Room 406, General Education Building

中級英語 I Intermediate English I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、スピーチの実践を中心に、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chapter 1 Herbivorous Males
3. Chapter 2 Galapagized Japan
4. Chapter 3 Uniformity
5. Chapter 4 Universities in Japan
6. Chapter 5 English as a Lingua Franca
7. Chapter 6 Disaster Spirit
8. Chapter 7 Immigrants Needed
9. Chapter 8 Manga
10. Chapter 9 Lack of Entrepreneurs
11. アウトライン発表会
12. スピーチ・コンテスト予行演習
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

- ・毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。
- ・アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。
- ・自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Good-bye, Galapagos: Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ・ラーニング) ISBN: 9784863122161

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。
(研究室：共通教育棟 S408)

中級英語 II Intermediate English II

対象学科(コース)：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport
11. A star is born... or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う。(工学部学修細則第11条2)

Watch videos and listen to English tapes in the library. Research topics using the internet.

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

Prepare adequately for class based on the direction of the teacher.

8. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版) ISBN: 9780582403987

9. オフィスアワー

Mondays 3-4pm ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality/quantity/size/shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

	Topic 1	Topic 2	Topic 3
1	Subdisciplines	Areas of Interest	Problems/solutions
2	Gas turbines	Pumps	Ishikawa Diagrams
3	Heat transfer	Distillation	Signal processing
4	Polymers/plastics	Refrigeration	Solar energy
5	Transformers	Lasers	Combustion engine
6	Corrosion	Soil erosion	Bridges
7	Urban design	Pneumatics	Seismic engineering
8	Elect.resistance	Structural design	Process control
9	Image processing	River channel	Electromagnetism
10	Control theory	Conservation-mass	Thermodynamics Laws
11	High Definition	TV Water purification	Hydraulic engineering
12	Environmental	Tunnels	Highways
13	Electric lights	Artificial intell.	Maglev trains
14	Metals	Ceramics	Plastics
15	Review	Review	Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

8. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering Robert Long. Lulu Press. 507.7/L-3

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00
 Tuesday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00
 Room 406, General Education Building

上級英語 A I Advanced English A I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：1 単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. The aim is to improve students' fluency so that students are able to talk faster and longer. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning how Japanese culture is changing.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Crazy Fashions the Norm Paired Interviews
2. Marriage Under the Microscope Consultations
3. Wireless Japan Debates
4. My Grandfather's Binbogami Group Work
5. Review Review
6. E-Commerce Surveying
7. Rap and Hip-Hop Music Paired Interviews
8. Review Review
9. Children: A Different Breed Consultations
10. Competitive Sports Debates
11. Women Managers Group Work
12. Social Activists Surveying
13. Review
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Students are asked to bring in newspaper articles that are about some aspect of changes in Japanese culture or society and to summarize the information in English. Weekly homework is also given.

8. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN: 1-4116-28039

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00
 Tuesday : 11 : 00 – 12 : 00, 13 : 00 – 14 : 00
 Room 406, General Education Building

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students better express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. More emphasis is on longer and more developed ideas. Fluency is improved with students having well-developed paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning cultural themes from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1.	Family	Focus on questions and answers
2.	Beauty	Focus on assertions and disclaimers
3.	Education	Focus on comments and reflections
4.	Expertise	Focus on comparisons and suggestions
5.	Individualism	Focus on observations and criticisms
6.	Entertainment	Focus on preferences and recommendations
7.	Review and exam	
8.	Exam	
9.	Oligation	Focus on explanations and excuses
10.	Sports	Focus on comparison and complaint
11.	Power	Focus on claims and conjunctures
12.	Dependence	Focus on descriptions and testimonies
13.	Discipline	Focus choices and judgments
13.	Internet Forum	Practice: All speech acts
14.	Review	
15.	Exam	

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 80% Exams 20% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Students are asked to bring in newspaper articles that are about the cultural theme for the week, and to summarize the information in English. Weekly homework is also given.

8. 教科書・参考書

Culture Compass, by Robert Long. Lulu Press. ISBN: 978-1-4116-4484-7

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00

Tuesday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00

Room 406, General Education Building

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の3点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 英文読解
3. 議論・発表
4. 英文読解
5. 議論・発表
6. 英文読解
7. 議論・発表
8. 英文読解
9. 議論・発表
10. 英文読解
11. 議論・発表
12. 英文読解
13. 議論・発表
14. 英文読解
15. 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%）期末課題（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書を持参すること。
- ・プレゼンテーションを中心に進めるので、積極的な授業参加を必要とする。
- ・三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

リーディング、スピーキングともに量をこなす訓練を行うので、困難に感じた場合は学習方法について相談すること。

8. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

9. オフィスアワー

・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

・研究室：総合教育棟 410

・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に7割程度、またその延長線上にある presentation に3割程度の時間を当てる。

4. 社会ニュース
5. 科学ニュース
6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験…20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等…60%
- (3) Presentation…20%

6. 履修上の注意事項

最初の授業で説明する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に提示されるキーワードについて英語で意見を述べられるように準備しておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

9. オフィスアワー

木曜日4限目（総合教育棟4階414）
 上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B II Advanced English B II

対象学科（コース）：全学科
 学年：(1)・2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：1単位
 担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の3点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 英文読解
3. 議論・発表
4. 英文読解
5. 議論・発表
6. 英文読解
7. 議論・発表
8. 英文読解
9. 議論・発表
10. 英文読解
11. 議論・発表
12. 英文読解
13. 議論・発表
14. 英文読解
15. 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%）期末課題（30%）
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書を持参すること。
- ・プレゼンテーションを中心に進めるので、積極的な授業参加を必要とする。
- ・三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

リーディング、スピーキングともに量をこなす訓練を行うので、困難に感じた場合は学習方法について相談すること。

8. 教科書・参考書

プリントを配布する。
 辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 B II Advanced English II

対象学科（コース）：全学科

学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

国際社会において、英語でコミュニケーションをするうえで重要なのは、英語の運用能力と、自ら発信できる情報、教養である。本講義では、心理学、言語学に関して比較的平易な英語で書かれている専門書を精読し、それに関するテーマについてプレゼンテーションを行うことで、英語の読解能力を高めるとともに、人間科学の根本的題材に関して自分なりの考えを持ち、それを英語で明確に伝える能力を育むことを目標とする。

2. キーワード

情報発信、読解能力、運用能力、国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 英文読解・プレゼンテーション
3. 英文読解・プレゼンテーション
4. 英文読解・プレゼンテーション
5. 議論・発表
6. 英文読解・プレゼンテーション
7. 英文読解・プレゼンテーション
8. 英文読解・プレゼンテーション
9. 議論・発表
10. 英文読解・プレゼンテーション
11. 英文読解・プレゼンテーション
12. 英文読解・プレゼンテーション
13. 英文読解・プレゼンテーション
14. 議論・発表
15. 議論・発表

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（プレゼンテーション）と課題、レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回英英辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所に関して事前に読み、プレゼンテーションの準備をしておくこと。また、その際、関連する事項に関してインターネットや書籍などで調べること。

8. 教科書・参考書

教科書：Steven Pinker (1997/2009) How the Mind Works (W.W. Norton) ISBN: 9780393334777

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：木曜 4限
- ・研究室：総合教育棟 412
- ・連絡先：maeda@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 C I Advanced English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' efforts in class will be evaluated by weekly assignments and presentations. Extra credit can be earned through writing presentations related to new technology in the students' own field of study. The presentations will focus on explaining the technology and then its potential impact on society, as well as effectively answering questions from the audience.

2. キーワード

Communication, debate, critical thinking

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. A World of English
2. Where are all the Babies?
3. The Price of Excellence
4. The Inconvenient Truth of Global Warming
5. Review
6. Changing Ideals of Beauty
7. Vegetarianism
8. Disappearing languages
9. Our Crowded Earth
10. Review
11. Do Great Athletes Deserve Great Salaries?
12. The Global Warming Myth?
13. Is Beauty Skin Deep?
14. Animals as Food
15. Review
16. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Be ready to present on a weekly basis on a innovative and new product or aspect in your own engineering field. Furthermore, read ahead in the textbook so as to familiarize yourself with the tasks and vocabulary.

8. 教科書・参考書

教科書：In Focus: A Vocabulary, Reading, and Critical Thinking Skills Course. Student Book 2. Cambridge University Press. ISBN# 978-1-107-69701-0.

9. オフィスアワー

- Monday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00
- Tuesday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00
- long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406, General Education Building)

上級英語 C II Advanced English C II

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 3・4 年次 学期 : 後期 単位区分 : 選択

単位数 : 1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Peace around the World
3. Click Here!
4. What's in the News?
5. Heroes and Villains
6. Review Test 1
7. Family Matters
8. Let's Change the Subject!
9. Adventures in Science
10. Extend Reading 2
11. The Company We Keep
12. Stressed Out!
13. Shock Tactics
14. Extend Reading 3
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材 (附属図書館蔵) を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書 : Quick Smart English Advanced (Macmillan) ISBN: 9784777363032

参考書 : 新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

9. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14 : 30 ~ 16 : 00)
(総合教育棟 3 階 : S313)

技術英語 I Technical English I

対象学科 (コース) : 全学科 (人間科学科目)

学年 : 3・4 年次 学期 : 前期 単位区分 : 選択

単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Corrosion	L.A. network	Fluid Mechanics	Struct.	Analysis Elect. Resistance
2. Bonding	P-to-P Network	Mechatronics	Seismic Eng.	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams Elect.	Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Net.	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Opt.	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews/Exams				
7. Absorption	Software Eng.	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical chem.	Computer Arch.	Drafting	Fire Protection	Voltage
9. Catalysis	Operating systems	Piping	Geotechnical Eng.	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals/Fitting	Transport Eng.	Microelectronics
11. Chemical reactors	Artificial Intell.	Values	Environmental Eng.	Signal Processing
12. Reviews/Presentations				
13. Reviews/Presentations				
14. Reviews/Presentations				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習 (予習・復習) の指示

Students are encouraged to read ahead in the textbook so as to familiarize themselves with the readings, tasks, and vocabulary. Students are asked to present monthly on a topic in their own engineering field. Students must also familiarize themselves with their own subdisciplines and areas of interests in their own field and to be able to talk about each one extensively.

8. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press ISBN: 9784939130939

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00
Tuesday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406, General Education Building)

技術英語Ⅱ Technical English II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and writing assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Thermodynamics	Program Paradigm	Aerospace eng.	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	Triodes
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Erosion	Emissions
5. Biochemical Eng.	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Manage.	Hi.-Def. TV
6. Reviews / Exams				
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage	Transmission
10. Polymers	Theories-computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse engineering	Refrigeration	Hazardous Waste	PLC
12. Review				
13. Review				
14. Exam				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Students are encouraged to read ahead in the textbook so as to familiarize themselves with the readings, tasks, and vocabulary. Students are asked to present monthly on a topic in their own engineering field. Students must also familiarize themselves with their own subdisciplines and areas of interests in their own field and to be able to talk about each one extensively.

8. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Perceptia Press 507.7/L-2/2

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00

Tuesday : 11 : 00 - 12 : 00, 13 : 00 - 14 : 00

Room 406, General Education Building

外国系科目（初修外国語）

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達的手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母(国)語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることに寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。

文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、とすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ることが、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目（各1単位）が選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

入学時の4月に「ドイツ語Ⅰ」又は「中国語Ⅰ」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更できない。

1年次の必修科目は、ドイツ語を選んだ学生は「ドイツ語Ⅰ」（1年前期）、「ドイツ語Ⅱ」（1年後期）となり、中国語を選んだ学生は「中国語Ⅰ」（1年前期）、「中国語Ⅱ」（1年後期）となる。

2年次の必修科目は、ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語B」となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語B」となる。

中国語の履修を希望する学生は、4月の始業時に抽選を行うので、指示に従い申し込むこと。抽選結果は掲示板で知らせる。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を履修することになる。

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

ドイツ語について

アルファベット、発音

数詞、曜日、月、季節

動詞の現在人称変化（1）

定動詞の位置

名詞の性

名詞の格

冠詞類、代名詞

前置詞

前置詞の格支配

動詞の現在人称変化（2）

再帰動詞

語法の助動詞（1）

語法の助動詞（2）

分離動詞

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前にCDを聞いておくこと。授業後にもCDを聞きながら復習すること。

8. 教科書・参考書

田中 / 筒井「みるみるドイツ語」(同学社) ISBN: 9784810207392

9. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
 世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
- 第3回 発音・アルファベット
- 第4回 自己紹介（動詞の現在人称変化）
- 第5回 趣味と仕事（不規則動詞）
- 第6回 お買い物1（名詞の性と格変化、複数形）
- 第7回 お買い物2（形容詞）
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活（命令形）
- 第10回 私の家族（所有冠詞、人称代名詞）
- 第11回 つづき
- 第12回 旅行
 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。（語法の助動詞）
- 第13回 つづき
- 第14回 自分の一日（分離動詞）
- 第15回 ドイツの映画
 映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）
- 第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業で教室で販売します。2,520円です。
 参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。
 独和辞典が必要

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- {0} 発音 Stufe 1
- {1} 動詞の現在人称変化（1）／たずね方／2人称の Sie と du
 発音 Stufe 2
- {2} 名詞の性と冠詞／sein と haben／Ihr と mein／定形第2位／否定の語 nicht
- {3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／名詞の複数形／否定冠詞 kein
- {4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞
- *上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含まないドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習として、次回の授業で新しく習う表現の意味を調べておくこと。また、復習として、授業中に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

8. 教科書・参考書

[教科書] 山本 淳「じゃあ、またあした！」コンパクト版（同学社）ISBN: 9784810207316

9. オフィスアワー

毎週の授業の前後に教室にて対応します。それ以外の連絡は工学部教務係に伝言して下さい。成績に関わる問題については、まず教務係に相談して下さい。

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース)：電気電子・総合システム(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在(1 規則動詞)・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在(2 sein/haben)

動詞の現在(3 不規則動詞)・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

欠席しないこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

教科書や授業で使用した資料をもう一度復習し、単語を覚えていくこと。

8. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

9. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース)：電気電子・総合システム(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置づけ

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)

第2回 あいさつ

第3回 発音・アルファベット

第4回 自己紹介(動詞の現在人称変化)

第5回 趣味と仕事(不規則動詞)

第6回 お買い物1(名詞の性と格変化、複数形)

第7回 お買い物2(形容詞)

第8回 中間まとめ

第9回 食生活(命令形)

第10回 私の家族(所有冠詞、人称代名詞)

第11回 つづき

第12回 旅行 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。(語法の助動詞)

第13回 つづき

第14回 自分の一日(分離動詞)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業で教室で販売します。2,520円です。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み(非常勤講師控室)

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース)：電気電子・総合システム(人間科学科目)

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：

1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前期第1回～15回)。

ドイツ語について

発音、あいさつ

冠詞と名詞の性と格

複数形

動詞の基本的な現在人称変化

口調上の例外

重要な不規則動詞

不規則動詞の現在人称変化

定冠詞・不定冠詞の格変化

人称代名詞

定冠詞類、不定冠詞類

指示代名詞

命令法

疑問詞

否定の仕方

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

授業前にCDを聞いておくこと。授業後にもCDを聞きながら復習すること。

8. 教科書・参考書

平川要ほか「改訂版・やさしいドイツ語 ―総合教材―」(同学社) ISBN: 9784810207361

9. オフィスアワー

学生相談日を設定(授業時間の前後)

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース)：応用化学・マテリアル(人間科学科目)

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

ドイツ語文法、異文化理解、音読、ドイツ史、ヨーロッパ文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の基礎文法を習得する。
2. ドイツ文を流ちょうに音読できる。
3. ドイツの歴史・文化を通して日本を考える。

4. 授業計画

ドイツ語の発音

・現在人称変化

・定冠詞類

・不定冠詞類

・命令形

人称代名詞

・形容詞の格変化

・動詞の3基本形

・完了形

・語法の助動詞

・分離動詞

・再帰動詞

・指示代名詞、関係代名詞

・受動態

・接続法Ⅰ、Ⅱ

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況(課題の達成度)を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこること。

・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこること。

8. 教科書・参考書

西本美彦ほか「新文法システム15」(同学社) ISBN: 978-4-8102-0881-8

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科(コース)：応用科学・マテリアル(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取り入れながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

- 発音
- 動詞の現在(1 規則動詞)・定動詞の位置
- 名詞と定冠詞
- 動詞の現在(2 sein/haben)
- 動詞の現在(3 不規則動詞)・命令法
- 不定冠詞と冠詞類
- 名詞の複数形・男性弱変化名詞
- 人称代名詞・疑問詞
- 前置詞
- 接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

欠席しないこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

教科書や授業で使用した資料をもう一度復習し、単語を覚えていくこと。

8. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社
 ISBN: 9784255253237

9. オフィスアワー

授業時間の前後
 E-mail: n-miwako@nifty.com

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科(コース)：機械知能・建設社会(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置づけ

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(後期第1回〜15回)。

- 動詞の3基本形
- 過去形
- 現在完了形
- haben 支配と sein 支配
- 枠構造
- 受動態
- 未来形
- werden の用法
- 並列の接続詞
- 従属接続詞
- 副文
- zu 不定詞
- 関係代名詞
- 命令形
- 接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

授業前にCDを聞いておくこと。授業後にもCDを聞きながら復習すること。

8. 教科書・参考書

田中 / 筒井「みるみるドイツ語」(同学社) ISBN: 9784810207392

9. オフィスアワー

学生相談日を設定(授業時間の前後)

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
 世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
- 第3回 発音・アルファベット
- 第4回 自己紹介（動詞の現在人称変化）
- 第5回 趣味と仕事（不規則動詞）
- 第6回 お買い物1（名詞の性と格変化、複数形）
- 第7回 お買い物2（形容詞）
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活（命令形）
- 第10回 私の家族（所有冠詞、人称代名詞）
- 第11回 つづき
- 第12回 旅行 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。（語法の助動詞）
- 第13回 つづき
- 第14回 自分の一日（分離動詞）
- 第15回 ドイツの映画
 映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）
- 第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業で教室で販売します。2,520円です。
 参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。
 独和辞典が必要

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- {5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化
 {6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化
 {7} 語法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）
 {8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞
 {9} 現在完了／語法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いきれるまで練習した上で発表してもらう。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習として、次回の授業で新しく習う表現の意味を調べておくこと。また、復習として、授業中に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

8. 教科書・参考書

[教科書] 山本 淳「じゃあ、またあした！」コンパクト版（同社）ISBN: 9784810207316

9. オフィスアワー

毎週の授業の前後に教室にて対応します。それ以外の連絡は工学部教務係に伝言して下さい。成績に関わる問題については、まず教務係に相談して下さい。

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

- 動詞の3基本形・過去
- 現在完了・過去完了
- 話法の助動詞・未来
- 形容詞の格変化・名詞化
- zu 不定詞・man
- 比較
- 再帰動詞・非人称動詞
- 受動・分詞
- 関係詞・指示代名詞
- 接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

欠席しないこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書や授業で使用した資料をもう一度復習し、単語を覚えていくこと。

8. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社
 ISBN: 9784255253237

9. オフィスアワー

授業時間の前後
 E-mail: n-miwako@nifty.com

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置づけ

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
 世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
- 第3回 発音・アルファベット
- 第4回 自己紹介（動詞の現在人称変化）
- 第5回 趣味と仕事（不規則動詞）
- 第6回 お買い物1（名詞の性と格変化、複数形）
- 第7回 お買い物2（形容詞）
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活（命令形）
- 第10回 私の家族（所有冠詞、人称代名詞）
- 第11回 つづき
- 第12回 旅行 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。(話法の助動詞)
- 第13回 つづき
- 第14回 自分の一日（分離動詞）
- 第15回 ドイツの映画
 映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
- 第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業で教室で販売します。2,520円です。
 参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。
 独和辞典が必要

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回）。

接続詞

時刻の言い方

前置詞の格支配

3・4格支配の前置詞

話法の助動詞

未来形

分離動詞

再帰動詞

過去形、現在完了形

形容詞の用法

副文

関係代名詞

受動表現

形容詞の比較

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前にCDを聞いておくこと。授業後にもCDを聞きながら復習すること。

8. 教科書・参考書

平川要ほか「改訂版・やさしいドイツ語 ―総合教材―」（同学社）ISBN: 9784810207361

9. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

ドイツ語文法、異文化理解、音読、ドイツ史、ヨーロッパ文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の基礎文法を習得する。
2. ドイツ文を流ちょうに音読できる。
3. ドイツの歴史・文化を通して日本を考える。

4. 授業計画

ドイツ語の発音

- ・現在人称変化
- ・定冠詞類
- ・不定冠詞類
- ・命令形

人称代名詞

- ・形容詞の格変化
- ・動詞の3基本形
- ・完了形
- ・話法の助動詞
- ・分離動詞
- ・再帰動詞
- ・指示代名詞、関係代名詞
- ・受動態
- ・接続法Ⅰ、Ⅱ

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況（課題の達成度）を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこること。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書くこと。

8. 教科書・参考書

西本美彦ほか「新文法システム15」（同学社）ISBN: 978-4-8102-0881-8

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。
 単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

- 動詞の3基本形・過去
- 現在完了・過去完了
- 話法の助動詞・未来
- 形容詞の格変化・名詞化
- zu 不定詞・man
- 比較
- 再帰動詞・非人称動詞
- 受動・分詞
- 関係詞・指示代名詞
- 接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

欠席しないこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書や授業で使用した資料をもう一度復習し、単語を覚えていくこと。

8. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社
 ISBN: 9784255253237

9. オフィスアワー

授業時間の前後
 E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置づけ

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)
- 第2回 あいさつ
CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。
- 第7回 お買い物2
roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
- 第11回 お願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

- 第13回 旅行 2
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。
- 第14回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
- 第15回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
つづき
- 第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項

毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 島浦 一博

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

アルファベット・発音

ベルリン大好き

ワールドカップサッカー

ビール1杯

ドイツ人とパン

グリム童話

アウトバーン

環境保護

ドイツの人気バンド Tokio Hotel

ドイツの歴史

色で表すドイツの政治

手紙

再生可能エネルギー

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！< Ver.3 >（郁文堂）

ISBN: 9784261012354

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- | | | |
|------|------------|-------------|
| 第1回 | Lektion 10 | 話法の助動詞 |
| 第2回 | Lektion 10 | 〃 |
| 第3回 | Lektion 11 | 過去形 |
| 第4回 | Lektion 11 | 現在完了形 |
| 第5回 | Lektion 11 | 〃 |
| 第6回 | Lektion 12 | 受動態 |
| 第7回 | Lektion 13 | 比較 |
| 第8回 | Lektion 13 | 〃 |
| 第9回 | Lektion 14 | 関係文 まとめ小テスト |
| 第10回 | Lektion 14 | 〃 まとめ小テスト |
| 第11回 | Lektion 15 | 接続法 まとめ小テスト |
| 第12回 | Lektion 15 | 〃 まとめ小テスト |
| 第13回 | まとめ演習 | まとめ小テスト |
| 第14回 | まとめ演習 | まとめ小テスト |
| 第15回 | 総復習 | |

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、宿題を出しますのでしっかり予習してきてください。

8. 教科書・参考書

「ドイツ語ナビゲーション」(Navigation ins Deutsche)、前田良三 他、朝日出版社、2500円 ISBN: 978-4-255-25375-6

9. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーションドイツとドイツ語について |
| | 世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用) |
| 第2回 | あいさつ |
| | CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。 |
| 第3週 | 発音・アルファベット |
| | ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。 |
| | 正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用) |
| 第4回 | 自己紹介 |
| | 自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。 |
| 第5回 | 趣味と仕事 |
| | 自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他) |
| 第6回 | お買い物1 |
| | 買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。 |
| 第7回 | お買い物2 |
| | roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題) |
| 第8回 | 中間まとめ |
| 第9回 | 食生活 |
| | 食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。 |
| 第10回 | 私の家族 |
| | 自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。 |
| 第11回 | お願いがあります |
| | 困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。 |
| | 話し方のマナーや注意点について説明する。 |
| 第12回 | 旅行 |
| | ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。 |

- 第13回 旅行 2
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。
- 第14回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
- 第15回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
- 第16回 テスト
5. 評価の方法・基準
期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%
6. 履修上の注意事項
毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。
8. 教科書・参考書
教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。
参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。
独和辞典が必要
9. オフィスアワー
木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）
学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
担当教員名 島浦 一博

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中にあって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

アルファベット・発音
ベルリン大好き
ワールドカップサッカー
ビール1杯
ドイツ人とパン
グリム童話
アウトバーン
環境保護
ドイツの人気バンド Tokio Hotel
ドイツの歴史
色で表すドイツの政治
手紙
再生可能エネルギー

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！< Ver.3 >（郁文堂）

ISBN: 9784261012354

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、宿題を出しますのでしっかり予習してきてください。

8. 教科書・参考書

「ドイツの人と暮らし」、池田信雄 他、朝日出版、2400円
 ISBN: 978-4-255-253619-5

9. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	オリエンテーションドイツとドイツ語について
	世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)
第2回	あいさつ
	CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
第3週	発音・アルファベット
	ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
	正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
第4回	自己紹介
	自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
第5回	趣味と仕事
	自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
第6回	お買い物1
	買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。
第7回	お買い物2
	roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
第8回	中間まとめ
第9回	食生活
	食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
第10回	私の家族
	自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
第11回	お願いがあります
	困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
	話し方のマナーや注意点について説明する。
第12回	旅行
	ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

- 第13回 旅行 2
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。
- 第14回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
- 第15回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
つづき
- 第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項

毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師室）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 島浦 一博

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語Aと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

Ankunft in Berlin
Beim Becker
Sprachkurs
In der Mensa
Beim Arzt
Beim Studentenwohnheim
Zum Wannsee
Beim Friseur
In einem Biergarten
In einer Boutique
Philipps Geburtstag
Vor der Abreise

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

清野智昭：ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン]
DVD付き（朝日出版社）840/S-21

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 話法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 "
- 第3回 Lektion 11 過去形
- 第4回 Lektion 11 現在完了形
- 第5回 Lektion 11 "
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 "
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 14 " まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 " まとめ小テスト
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、宿題を出しますのでしっかり予習してきてください。

8. 教科書・参考書

「ドイツ語を読む (Lesebuch Deutsch)、Susanne Schermann
 相原 剣、朝日出版社、2200円 ISBN: 978-4-255-25377-0

9. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

ドイツ語文法、異文化理解、音読、ドイツ史、ヨーロッパ文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の基礎文法を習得する。
2. ドイツ文を流ちょうに音読できる。
3. ドイツの歴史・文化を通して日本を考える。

4. 授業計画

- ・ドイツ語の発音
- ・動詞の人称変化
- ・名詞の性・数・格
- ・人称代名詞、再帰代名詞、再帰動詞
- ・冠詞類
- ・形容詞の格変化、比較変化
- ・分離動詞
- ・語法の助動詞
- ・過去形、現在完了形
- ・受動態
- ・関係文
- ・接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況（課題の達成度）を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこること。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこること。

8. 教科書・参考書

大園正彦「異文化理解のための初級ドイツ語文法」(朝日出版社)
 ISBN 978-4-255-25371-8

9. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 渡辺 アンゲーリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
 世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)
- 第2回 あいさつ
 CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアーで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
 ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
 正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
 自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
 自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
 買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
 冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。
- 第7回 お買い物2
 roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
 食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
 自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
- 第11回 お願いがあります
 困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
 話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
 駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
 駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項

毎回ドイツへ行った気分です、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業中に課題について指示を行う。自宅で取り組み、期限までに提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布 しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 島浦 一博

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回）。

- Ankunft in Berlin
- Beim Bcker
- Sprachkurs
- In der Mensa
- Beim Arzt
- Beim Studentenwohnheim
- Zum Wannsee
- Beim Friseur
- In einem Biergarten
- In einer Boutique
- Philipps Geburtstag
- Vor der Abreise

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

清野智昭：ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン]
 DVD付き（朝日出版社）840/S-21

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 "
- 第3回 Lektion 11 過去形
- 第4回 Lektion 11 現在完了形
- 第5回 Lektion 11 "
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 "
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第10回 Lektion 14 " まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 " まとめ小テスト
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回、宿題を出しますのでしっかり予習してきてください。

8. 教科書・参考書

「DVD わかるぞドイツ語！ みえるぞドイツ」(Deutschland wie es ist) 朝日出版、2500円 ISBN: 978-4-255-25373-2 C1084

9. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

ドイツ語文法、異文化理解、音読、ドイツ史、ヨーロッパ文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の基礎文法を習得する。
2. ドイツ文を流ちょうに音読できる。
3. ドイツの歴史・文化を通して日本を考える。

4. 授業計画

- ・ドイツ語の発音
- ・動詞の人称変化
- ・名詞の性・数・格
- ・人称代名詞、再帰代名詞、再帰動詞
- ・冠詞類
- ・形容詞の格変化、比較変化
- ・分離動詞
- ・話法の助動詞
- ・過去形、現在完了形
- ・受動態
- ・関係文
- ・接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況（課題の達成度）を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してこること。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてこること。

8. 教科書・参考書

大園正彦「異文化理解のための初級ドイツ語文法」(朝日出版社)
 ISBN 978-4-255-25371-8

9. オフィスアワー

授業時間の前後

選択ドイツ語 I Elective German I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 未定

1. 概要

未定

2. キーワード

未定

3. 到達目標

未定

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

未定

6. 履修上の注意事項

未定

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

未定

8. 教科書・参考書

未定

9. オフィスアワー

未定

選択ドイツ語Ⅱ Elective German II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

実践ドイツ語Ⅰ Practical German I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

実践ドイツ語Ⅱ Practical German II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

未定

2. キーワード

未定

3. 到達目標

未定

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

未定

6. 履修上の注意事項

未定

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

未定

8. 教科書・参考書

未定

9. オフィスアワー

未定

中国語 I Chinese I

対象学科(コース)：電気電子・総合システム(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 第一課 ピンイン、声調、軽声、単母音
3. 第二課 子音、無気音と有気音、そり舌音
4. 第三課 複合母音、鼻母音
5. 第四課 声調記号、アル化音
6. 第五課 動詞構文、名詞述語文、形容詞構文
7. 第五課 復習
8. 第六課 お金の言い方、存在文(1)、疑問詞疑問文
9. 第六課 復習
10. 第七課 正反疑問文、完了の“了”、連動文、存在文(2)
11. 第七課 復習
12. 第八課 年齢、変化の“了”、選択疑問文、比較表現
13. 第八課 復習
14. 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%) 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『これでパーフェクト！新 中国語の旅』(張勤 朝日出版社) ISBN: 9784255452166

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語 I Chinese I

対象学科(コース)：機械知能・建設社会(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から(字を判別する)入る道と、聴覚から(発音し、聴き取る)入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話(中国の標準語)の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 こんにちは
5. テキスト第二課 また明日
6. テキスト第三課 ありがとう
7. テキスト第四課 お久しぶり
8. テキスト第五課 出迎える
9. テキスト第六課 動詞：是
10. テキスト第七課 基本語順 S + V + O
11. テキスト第八課 助動詞：想
12. テキスト第九課 動詞：在
13. テキスト第十課 数の言い方
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席重視 2/3以上の出席必須。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

テキスト付録のCDの該当ページを5回以上聴き、リピート。
 随時プリント教材を配布するので、ホームワークとして学習する。

8. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」(朝日出版社) 827.8/C-2

9. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 第一課 ピンイン、声調、軽声、単母音
3. 第二課 子音、無気音と有気音、そり舌音
4. 第三課 複合母音、鼻母音
5. 第四課 声調記号、アル化音
6. 第五課 動詞構文、名詞述語文、形容詞構文
7. 第五課 復習
8. 第六課 お金の言い方、存在文（1）、疑問詞疑問文
9. 第六課 復習
10. 第七課 正反疑問文、完了の“了”、連動文、存在文（2）
11. 第七課 復習
12. 第八課 年齢、変化の“了”、選択疑問文、比較表現
13. 第八課 復習
14. 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『これでパーフェクト！新 中国語の旅』（張勤 朝日出版社）ISBN: 9784255452166

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 こんにちは
5. テキスト第二課 また明日
6. テキスト第三課 ありがとう
7. テキスト第四課 お久しぶり
8. テキスト第五課 出迎える
9. テキスト第六課 動詞：是
10. テキスト第七課 基本語順 S + V + O
11. テキスト第八課 助動詞：想
12. テキスト第九課 動詞：在
13. テキスト第十課 数の言い方
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

テキスト付録のCDの該当ページを5回以上聴き、リピート。
 随時プリント教材を配布するので、ホームワークとして学習する。

8. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）827.8/C-2

9. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科(コース)：電気電子・総合システム(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 復習
- 2. 第九課 前置詞、方位詞、二重目的語の文、“把”構文
- 3. 第九課 復習
- 4. 第十課 様態補語、可能表現、時量補語
- 5. 第十課 復習
- 6. 第十一課 結果補語、連体修飾語、進行表現
- 7. 第十一課 復習
- 8. 第十二課 予定表現、持続表現
- 9. 第十二課 復習
- 10. 第十三課 主述述語文、受動構文、存現文
- 11. 第十三課 復習
- 12. 第十四課 方向補語、可能補語
- 13. 第十四課 復習
- 14. 第十五課 使役構文
- 15. 第十五課 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験(70%)、小テスト・出席点(30%) 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『これでパーフェクト！新 中国語の旅』(張勤 朝日出版社) ISBN: 9784255452166

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科(コース)：機械知能・建設社会(人間科学科目)
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から(字を識別する)入る道と、聴覚から(発音し、聞き取る)入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話(中国の標準語)の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、繁体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 中国映画上映
- 2. テキスト第十一課 年月日・日曜日・年令表現
- 3. テキスト第十二課 量詞の使い方
- 4. テキスト第十三課 時刻の言い方
- 5. テキスト第十四課 アスペクト“了”
- 6. まとめ 復習
- 7. テキスト第十五課 助動詞：能・可以
- 8. テキスト第十五課 助動詞：会
- 9. テキスト第十六課 現在進行形
- 10. テキスト第十六課 電話のかけ方
- 11. テキスト第十七課 まとめ復習(発音)
- 12. テキスト第十七課 まとめ復習(発音)
- 13. テキスト第十八課 まとめ復習(文法)
- 14. テキスト第十八課 まとめ復習(文法)
- 15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験90%、平常点10%、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席重視、2/3以上の出席必須。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

テキスト付録のCDの該当ページを5回以上聴き、リピート。
 随時プリント教材を配布するので、ホームワークとして学習する。

8. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」(朝日出版社) 827.8/C-2

9. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第九課 前置詞、方位詞、二重目的語の文、“把”構文
3. 第九課 復習
4. 第十課 状態補語、可能表現、時量補語
5. 第十課 復習
6. 第十一課 結果補語、連体修飾語、進行表現
7. 第十一課 復習
8. 第十二課 予定表現、持続表現
9. 第十二課 復習
10. 第十三課 主述述語文、受動構文、存現文
11. 第十三課 復習
12. 第十四課 方向補語、可能補語
13. 第十四課 復習
14. 第十五課 使役構文
15. 第十五課 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：『これでパーフェクト！新 中国語の旅』（張勤 朝日出版社）ISBN: 9784255452166

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、繁体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 年月日・日曜日・年令表現
3. テキスト第十二課 量詞の使い方
4. テキスト第十三課 時刻の言い方
5. テキスト第十四課 アスペクト“了”
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 助動詞：能・可以
8. テキスト第十五課 助動詞：会
9. テキスト第十六課 現在進行形
10. テキスト第十六課 電話のかけ方
11. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
12. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
13. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
14. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

出席重視、2/3以上の出席必須。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

テキスト付録のCDの該当ページを5回以上聴き、リピート。
 随時プリント教材を配布するので、ホームワークとして学習する。

8. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）827.8/C-2

9. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかり修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

- 1. オリエンテーション
- 2. 第五課 復習
- 3. 第五課 暗唱 第六課 復習
- 4. 第六課 暗唱 第七課 復習
- 5. 第七課 暗唱 第八課 復習
- 6. 第八課 暗唱 第九課 復習
- 7. 第九課 暗唱 第十課 復習
- 8. 第十課 暗唱 第五課～第十課 小テスト
- 9. 第十一課 復習
- 10. 第十一課 暗唱 第十二課 復習
- 11. 第十二課 暗唱 第十三課 復習
- 12. 第十三課 暗唱 第十四課 復習
- 13. 第十四課 暗唱 第十五課 復習
- 14. 第十五課 暗唱 第十一課～第十五課 小テスト
- 15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 本文の中国語を流暢に暗唱するために、何度も読みの練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：『これでパーフェクト！新 中国語の旅』（張勤 朝日出版社）ISBN: 9784255452166

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかり修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 発音のまとめ①
- 2. 発音のまとめ②
- 3. 第一課 名詞述語文
- 4. 第二課 自己紹介
- 5. 第三課 形容詞述語文
- 6. 復習
- 7. 第四課 数・日付の言い方
- 8. 第五課 動詞述語文
- 9. 第六課 存在文
- 10. 復習
- 11. 第七課 助動詞・反復疑問文
- 12. 第八課 助動詞
- 13. 第九課 経験の表現など
- 14. 第十課 料理を注文する表現など
- 15. 復習

5. 評価の方法・基準

期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 本文の中国語を流暢に暗唱するために、何度も読みの練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：『〈新版〉中国語 10 課』（方如偉・王智新・鋸屋一 白水社）820.7/H-1/2

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

選択中国語Ⅰ Elective Chinese I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

未定

2. キーワード

未定

3. 到達目標

未定

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

未定

6. 履修上の注意事項

未定

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

未定

8. 教科書・参考書

未定

9. オフィスアワー

未定

選択中国語Ⅱ Elective Chinese II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

未定

2. キーワード

未定

3. 到達目標

未定

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

未定

6. 履修上の注意事項

未定

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

未定

8. 教科書・参考書

未定

9. オフィスアワー

未定

実践中国語 I Practical Chinese I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

実践中国語 II Practical Chinese II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
担当教員名 未定

1. 概要
未定
2. キーワード
未定
3. 到達目標
未定
4. 授業計画
未定
5. 評価の方法・基準
未定
6. 履修上の注意事項
未定
7. 授業外学習（予習・復習）の指示
未定
8. 教科書・参考書
未定
9. オフィスアワー
未定

選択韓国語Ⅰ Elective Korean I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

未定

2. キーワード

未定

3. 到達目標

未定

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

未定

6. 履修上の注意事項

未定

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

未定

8. 教科書・参考書

未定

9. オフィスアワー

未定

選択韓国語Ⅱ Elective Korean II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 未定

1. 概要

未定

2. キーワード

未定

3. 到達目標

未定

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

未定

6. 履修上の注意事項

未定

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

未定

8. 教科書・参考書

未定

9. オフィスアワー

未定